情旅

五十二

E 23
48

東京大学総合図書館

かしこがけ人のおゝせあそりとも清たけともひおかれ
[illegible]りの姫君は人にあたまをきてんかのさはき
[illegible]山は弟にて京しらあり
[illegible]めしかいおゝつかれとてきさ
[illegible]くさるのなくにあむも侍らし
[illegible]ひのは梅の侍のふきてこん
[illegible]てあそそますとふゝとゝまう
[illegible]くて是は清をつかひつゝ候
[illegible]なへ給うこらうあむし侍うかを抱かれ思ふ給ひし
ふ角をもらいはる小袖をあけ給つゝとゝあら

[illegible]

つはまる
うがく
ぢやぢ

丁内資料 東京大学総合図書館

かしこけは人におほせられてとゝめけるとなむおほせ
ありて姫君は人にもみえたまはてつれ〳〵なるまゝに
あまたの夜をしのひて侍りけれは弟にて京よりあり
つかひの御文まゐらせけれとかへりことなかりけれは
人めも恥ありまうさるゝ人々にも侍らて
またさらつくしつかひはもとめ侍らむときこえ給へ
こゝろよりなりてはてましとまちて侍りこそ
あらしの風のふきてさらにれいの心ち
つかひこころみ侍らてさきの御返りし
さうしをふみもつれなくまつほとにかへり

0005839626

東京大学総合図書館

めく／＼こゝろうきをあけまてはいてまつらなさ
うちよりまて待てゐたりけれは少将殿は夜ふけなに
うらとけてんにはあらねとゆかしきれい
かへりうて侍らんとあるはいとおかしきに物まさ
らせ給へんとかくさまにて右近将監すむ人
なりてむまへ雨ふりぬへきにひとり人の心
もとにあまてゝうちいらかしうめくきえよ
心すゑてはちうて給へりかまうりなと侍さ
しらぬ結やうすりむおはしまさりし程しんかほ
心とられまくちりけり思よりてまくて

ますむかりしとはかきつけふかさもしく秋をとしく
みし京か女房にみをつくしたえにけりれはかくまちて子
めしなりとは桜のはなのそしてさきつかさつきてむ
御さかりはいさしくおほしあかつきしすへてなまり
わかれとも身てもくお思ひくおもひおもふくしき
心ともかりしよりもしおもはんてゆりつゝ人の御心
さ御をも侍りたまへはつのまゐりておほつかなくいて
しめりとは中くもゝのをおほしらはたいし御てり
せんくこそいて返々は宮の御ていと思いおもひて
まかりしゆ御りいふかきりなくもし秋とさみすゝに

あひだかくれてみれば色なりとのこゝろくるしく
ひめ君は、はゝ人に、まゆくまふんとおもやなんとおもひ
ちゝきみつひあひつゝわりなきことふ語り
きこて嬉しくもえ知りて若君の行方にしけ若君の人
くら色の時しひめ君らにも殺してけるは、神もおなじ
みすかのもし大人をおつしきちぬかりの君はいひて
いふ人にはひとりのふかくりて君に申しひ語といふ様
たのあるくるしき君のこゝめてくわしうもこゝそて
いりぬかくふんと申さる物たちにに嬉しおもひて給
おほせ給ふくまこちゆこてきこえすりは伝な事とも

めこありしかは、未練なる人かなとて、ちりけるまく
てつ様にもおもしけるかりし様をおもし居は
きこゆけるは、ときこえいきて前つきこそ御
君にひきけと宮の大将は、かの中のきて
給てし給ひしとの井上の物おもひありけるは、まれ
おほせ給ひしこて下人のまゐり若すゝめてみんとて
とひ給へる君は、とつらつる君かくてときこえて渡りけた
らしと思ひて給ひは、おもひあはすなるとや
給ひしさて御文かへしつ人の文を給へん所は、つかへ
きはうしかる人、若君も給へんときこえて給ひけるは

いとおほけなくて候はんもはつかしく御前の御まへ
御うしろの方によりて御障子のもとにさふらひていかゝ
とおもふにはしたなくあさましき事かなとて御袖を
この君は侍と申すも中々まことしからすけれはにて
夕つかたになりぬれは人々にも候ひつるに御かた
見えつる事なとを中々されはわりなき御ことに思ひまいらせて
けうさめにもてなしきこえれは人あまたもたちさはく
おのつから御覧してはおほしめしよらぬことなれはと
何事にかはおほしめしつけさせ給ふそと申させ給へは
思ひわすれたる事のなかれはたゝき給ひけれとも甲斐なく

まつさはかりのひかりを御らんしてたてまつり給ふを
えさせてゐたまへはいとゝせきあへすなかれつゝ
なくて侍るか御まへに参りて候はんとて
御ちかしく参りたる御くるしさを見まいらせ御前にさし
御とのあはれにおはしまさせ給ふを見奉りて
侍らしとて御心ちにおはします御ゆかしさに
まことに侍らうすれ御前に御はちの御けしき
かゝりて見えけるにおはしましける宮をいとよ
いと心くるしくと思ひきこえて人はみなあり
おほせらるゝにきこえてさせ給へり只宮の御ひとつ人の

東京大学総合図書館

侍らひ給ひさらしてとこひとこひ立よ見給へとこひ
てあくるを侍りしにいろいろにてなく散りくるにて
めでたき御事あの君やいはくつふれおはし候ふよ
参りたるもすまうとみえさせ給ふかひなく
給ふも有明の影なりてもあはれ
さひしさかひおはし給ふと見えさせ給ふとはた
夕まだきのこの事やはりまことに命とのひ給ひ
つましき給ひてく給はせてさせ給ひ年月に
かくしある君をは見へてやうしさせし命いと
さてもしかしも人の代はたいへのおもし給ひし君

とこりなりあらし人まきれおもひまかれ思し
ふとてまろきみきこゆるをそんすると侍ひけ
給ひのしあたくを御はいとあらしと思ひて
あはれの給ふらし人のうへなきてゐるかたりふ
まうちのみえむともてなりまいあしらてきせたる
のつひしたいとてとかくてもひあきこゝなつ
後のみきこゆるあやうの事の侍りんまたの事
きこへは侍りあらんのつひのはこゝろ千まさ
ゆりうてとたのませ給ふくあらふあいめしせよと
松浦をら思はれのゆゑをてもうけあなとは出あられ

ちやうしんかのみちにて御とも申とハ人々とも
かうのものしらせハありけるときさかたはうとも
せうハあしとれんいまうとハうけまいらせ候なり
はなはひとまうあまりくすとこらへてまいらせ
めてたき御ことなれはつきててみんとおもてなふらかい
かくふてこ人々とかくひとそまつり候んとおもふ
近来ことあんなはかくてもあはれなるきつりましく候
らむしはやとなきてもなとおもしろはかり志さ
それよりのわつかにけふはかうしきてて候事なと
もろしめよりぬりかねあかしかたふみわすれ候ん

とみん候うちたちてけう事とハ人々ゑあさ御
ありさかくしけるく候とてもきててせ候へり志よ
御ちそうまいらうち千しあさ御しうなとゆ候
あくあし候つる存しまいらせ候まいらせくなくひらく
しるとひはさ御てありとさすうふまかなと
おなかみすちこえてて御しくハそとうきまいらせん
ちらみうら候つもいと事そきてつる存しくしと申
はうくともあしくまいらせんとへいかなるくしけるな
いさかく人々まうちて内をしてみききかたなハ申く
めてたきゆえくせことゆへ事ことなれと志きひ候し

ちゝ御ぜんハまことのちゝ世継こそ候ませ世継もんかんの
みうしに御なきかくあはれなる事ハ世継のはし
とも人々赤子をしと弟まで御んもいちゝがすゑ様へ申と
うしの家しきてこそ御中にて思ひなくそれの
在り川おち乃ハしりはつますされよりて宿気
わかり給ひし御ハかんともねしかつま人々よかはし
あらじられし左ハ御身しくもよしつ様まてなき
あはれにあり若ハ御身つつちゝ申し候ハ
ちゝにてつまの継母ありてハ御つぼね思ひ給ひなとも
志ら様ハ少人をあけ給ひつんにも思はもすへおはせや

くひつるんきうよひらく袖やゝうりそてハあらん人ともつ
りのくうりの御ぜんきこしめしこそ女房をひとゝ申
かうちにハ袖かりしと有ひハはさそてハ姉君つと
思ひきこゆ涙あつけりふしそすゝ行すなかめのてか
姉やらうもん人給ひつときてゝかなしまうしうりてたゝ
りたる人りやおもひとけ奉るとおはしたるひハまうら
姉君ゆめやあはれてハ御ことゝ之なく有りこそなり
きうたあへ人ハしうふそてけうれすりこともうえ捨をさ
ごさらひとハひくきんみなうれいそく御きあ
とうすとうりてはくうそ御身しとそてりとり

あはれ今まゐりかゝるハなくていと今まゐらはなかり
なん今わりなき修行者のうれへ事をこゝろにかけて
行をこらしたらんやうにしてまきてよろしきわさのの
ま御かきとまれはつる事を御事みつまきさけめと
うきよの事をはつゝかゝるにまゐりしかふけりけると
みつるをそ川のつくいさ申りつゝひきめつまゐりてかの事
ときて見てもこゝにまちしく所まと思ひはきて世
はひとん今とこゝといひ給はきそこゝのおもくいはむ
くつよあり はらなしとおもしてくさんはいと御
きこえといひあはせてしれひくる事とてもゆるしら

まゐりて侍りし事ゆへにあやしくてなき所にまうて
まうてもいとやさしき程なるを御前わりなくまいて
おいてゝくハみなるまかりなきことよりゆるさ今さく
思ひまいらひ給き寄ハとこゝしなきつめさ世まんれく
あり給つる今とてもかくとをきてまてあつふそ
よめる程なうとくいかなしきてそ思ひと宮のはつ
ゆふくれわしらかきてゝハ海ハよめきてゝはた
はころもんとかくるゝひて思ひてありしさ海をきこゆ
侍りハ物今ゝきていりえといふ風にもきつゝゆうへさ
とひつゝ侍ハこれたまへり海まと思川よりあふまことを世給へ

かりと思ふにいと神しうおもしろき人々あはれなる心おほし
侍りけんうた物かたりにてかくとこふもなくて見捨さ
かしとの給へは御心ふかく思ひつゝ給ひし給へるに中宮のあ
給ふうちなるゝへはまつふかくて松をしはしに有る物の人
のゝひきたえんとはさてきてみつゝきにこの見ゆへにきさ
御くらきに思ひけん猿のせきの家に住給へるにけしきは
しくも人帰りておもひし給ふ御心とはしの人々きこえ
して車よせさせておましにうち宮のかけたつ也
給ひ出てうちても見るかくめきをとれ給ふに御はせ
御すきに庭に御物をとつる道とかくにあなたこのすかひて

うるこのおもはあまりあるかれはむつましききこえと
とめしり恵りそらおもひすくしまきて心ゆかはりなりきき
きこりしそ人の多くありさりけれはいとま多くは
侍りしものとかくといと衣はいと侍りしくゆくしかれ
御まへの大夫のきこえ給へる見てたしはしきこえし
かりしさりて御心そゝのこゝろのほとに
わかしもやさ物語て日ゝにうち過侍るしを
こそつらうもあさてはいはれをきゝつゝきゝ
かにましいとせはいとたへにあまりはうかし
とて此車とむかひの山のまへたりなくに庭りて

人はいふとも世をもあるはありうるほとしの
かきりして君をなけきたまふくるつゆはいてあるか
かく今ははや中々かなたをかなしき志なれは
ふみて侍ところをかくするわしはたいは侍とおほしき
世はかさるをあるしあるをすらて志給をはけしく
身をあはれにて給れけるをかなしとそ思けるまゝに
又こえあるわかの今はかはらぬく京の今をは給
あまりの振るまひ君をかくすまひとなみたの今そ
此ことは思ひ悔ひし言よりはさまし侍てそのさ
らてられる荒世中に大将そわかりてかくれ

ま給ふにまたりときこえ世給へるありにほおかりした
り宰もあるしもと言よくもおきて宮かりしてさ
侍りおかれもあをせ寿志りもそのこと志給ふ北方
かれ井の小かくれ給ひしまことにあへて宮給ふも
うらひきこえて給ひし侍わか今そこそうらむ
ゐとそおほしもせんかしい方給てやとせいふを
宰もくあつせて今けにみきけり侍るあり
こと給ふうたかれ給ひてあいはらてからむし
も今こて世に宰さをあへてもよりつゝ宿とむ
又きゝて見きてはかまいふらくあわあるはあるあ

東京大学総合図書館

りはきこゆれともそれたゝりさうなる人ては誹諧
たり屋の小ありしか酒のとともきこえてん呂とは
なりしかとあ人あまてしまりし人はそてよきこえしか
にむかし朽てとしかし人なきこまなる人とせし人
かありそ常なくもののおにそむくはいはそらしなる
太政大臣入道の宮の御ありさま給けるは石山よりかへり
給ふにいきよ給はりかりさて侍らしうしかとも
にかはおもしけるてもとかくしうきさるんといはゆ
人はかりけるはかにはしきこまかにまつりむ
のまきことを人のしらしとてよにのみ人のなんとして

者のくにかはしかれはあさましきなからし給て後
ものに文ともはしきこえさせられなかりけるはみなまいらせ
まつくましかはおもふにもかく人まいりつくりたまふに給ひ
年ありりつくれてこの御前のとかくの御れうにこ
とりあへはかしこ人の年はまたこくとはせてゆくに
しては代の御ことにてうはけにきこえものこと
らうなるさまにてうきよせられてうちむかひてもとく
てもおもひはゆの心あさき事とてうちかなとはしも山
川のそしのおもてにあたるにみたれはしらう寺
あとくのむつましき事のあとくの大将しておはしけり

東京大学総合図書館

御使のきこゆるにつけてもいとゝ侍らぬ事のみき
こしんくされ共心ゆくまでは涙にむせばれ
ねのこゝりける事とみてけふしも侍る急ぎを
かりもよめる歌いとあはれ侍るにきこえ給ふ
心ばかりさる所にむかひまゐりやうしんなくそこと
まてさる所よりもかへりはじめてたびたびのこす
ひとつのまきも御覧じやうなりしもの給ひしをきた
るもの急ぎてへいとひまなく給ひしかば
とかくあやしくゆくさきのみこゝろのみにて
御ゆかしく思ひ給ひて侍る事のみなりこゝろ

おほしめしよろしくてあまたは京よりおもしろ
宮のうちはかなく給ひたるにさぞなく共あはれとて
侍る様もゆかしき事をひとつきこゆる事は花のみ
まゐり給ふ程に御たちうかへきこえて給ふ御さま
そはれぬるよ共に給ひけるきこ給ひかはり侍る
とものひき急ぎ給ひきこえし宗の御ことは侍らし
御覧じつかはしけるは心の世にはあまりて
それはいとをかしくもてなしあはれをさ給ふ
小さき志はつくしはべるにも急ぎ事共
さてもやうのうちはいそぎていかにも

東京大学総合図書館

の上今川をく揃しなりき渡ころ小松原へ参り
しかれ乃ともむなしくかくまいら今日てあまり候
と仏まての母ことの給ふや今川殿ありさまへ
とてはけのし給ふそ悲しみは悲歎してこそ
思ひまいらせは申こと申し候はゝ申しける
こなたもよもしの給ふ御宮は参りて二三日は神に
まかし給ひ渋すれは御つゝしみ給ひて侍るなれは
御花のけすんさてはたゝへ思ふしまいらせて
給ふもかりし志はまうれしとそあり。さ候はゝ
あらはらしもとより給ふ人々はさうしたまへん

尼まひ乃ありきこさ渡はのことみんまてうくすくなれ
やかれなしきまうせてとうしつてりてうくさと
あかしなれとなたのつゝこと志はありけれは侍なれ
まほくおほしますとひは今もあやうきまて志
つき給はんとは猶今は有けれはいつものことはいとゞく
これ弟しきはさて給ふ方またはよそ給ふその橋こゝか
ようし婦をりはあらぬありそりのかたまり給ふてはあきらか
はあらし乃人もし今うしまつり今まりしはたなれ
よりそ我母のにまたこれ乃年ものそ弟あ渡しこ
あかきとにかむしこ多くしみにてまうしきしかもち

東京大学総合図書館

し給ふの宮のやしなひに見たてまつりける人
あくよかせさせ給ふも御様のほとくしきさいふなる
とりまゐりの御そてまゐらせ給ひしを、かたしけなくと
おほしてさいけり給ふに、式部の宮に聞こしめすせ
給ひけるは、おほかんたらの御とやすく見すく
心の中に寂しさもりくらさせてつきく見えすゆ
ちこしおほしめさて、いとしなまわりしき御事に
なりく給ふかりかくおもひや給ふの御言ましく宮は
あつさて、いまいはからる御事はかきよき人にてそれは
給ふ様見えおはしめて、御いへ入給ふ人にはあいかし

給へすしおりを見て給へてあいなくはします
給はつねてて御涙のまつをみくちはせ
とおり志てそて村上のくさ心ちかへて御心を
み御遊ひて志しは御まわらの海なりし物
ちれいけゆに宮ゆて出りゆくらく候けに
世中のつ様なきをゆて、おそくまの御とけ給ふ
おもひしは給ひけり給ふとおほかみ情の風そて
らすりし給ひおほいまいしそてたかけまてしるあ
たとて御そてらんまこえて心まつれとや
御らむしとおほかなさてきのやたうこれ申もあはれ

東京大学総合図書館

はるをむかりなれハはなをあいしみ秋はもみちをゝしみて
物まうし給ふよる月をなかめわかれけんと
思ひしこ我君はかはり給はゝ三世まての契りと思ひ給ひし
我らかあはれをおもひきこえさせ給ふにあまる時はいつかく
らめ年月つけてくらす二とせふる人の御すかたの御事
みしりよりはなれてそのたけきわかくはしら
すとよそにしらせまいらせてこそしらしとしてしつかにけ
斗わかれの御もとに人の御めにあまりなん年月のつきなん
こそのおもひて思ひつゝ人まてもつきなきていつらんとく
と思ひてもたのみつゝゆきわかれけりしらぬきし

さらに心しるへき人をたのみてあそひしかたのまゝそのころに
こゝろはへまゐりきまくよろこひにうちきこえて
給ひしをたのみてもうとましとおもひて着よ
むかしたのみてきこえさせにしまいらせて世の中御心を待
きこえしはいと御心かけしそらにうちわかれと雨のふりてしく
上らふにまかりてまゐりはてまゐらせ給ふにふしく浦
立つれてはるかにきこゆるよ次第に待ち給ふを
ねかはくはあはれのみえてはつかしうすそこはへ
とけてとくゆるしつゝゆくしみ御座
山里にてそれにてそのはかなきこと人のあはれかな

ありける人ありしかとむかしに侍りしをきゝて清水
侍りて時をまて三川殿へ文をと給へつかはし
あひなく人のおほえ侍りしかは物思ひし
ほとにこの下りゆきて侍りしとおほされて見る
もなく文まてかへしはかりとあひてのこしん
も出しまみえてやありしと見給つまて侍
らむけれても見給ひてあき
見るまゝに出わかれて侍らさりしてかた
すくなき思給へける人にこそあれて
まてかく侍る身のありて世のならひ

思給つけ侍るなる身をなんきこえし中宮にも
侍らんかたにてしそのまゝ給はせてかくはみて
なしたまはりと思ひつまてと出給そめて、
いとめてたく御覧しき此侍りしかはかは
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

りみんなをのつくさうなく侍らしむ宮ゐてさふらう
かゝる御前に少納言は殿上にてはへりける
さみくれ宮のはうけ給はるにあかねはさみなから
世のことありけるにいまゆめのおもひくしあひな
きこととおもしくはしませおはしませなとき
こなきそていて御前の侍らしくてきこえさせつ
小くそれはりなれとさすらにた寺の人のきくせ
ありなりたくしけれみなゆきをさへ給のはゝりう
はきこえてまつり給みこゝろくりうりそめて
そこしこの世をりはそうひおほせありみ給ふとて

おはしますにさ浦くよつ島てく給りかおほせ人をく
きこえそうりける経はてよの人のゝはくりにてを
おつりと経まつりきたへとみらくはゝくにや人を
おもきゝゆめりのゆめちれあやまりみてそはありなれ
我しら斗の耳にてと給ひみてとれゆしとおもひと
たかまりあらこれ人のさるとおもはゆるつはけ
なかりくやはさはのゆふてはあさなてきはゆのよは
ものゝふあらしいくゑとあはれのおほえとこかり
こらしと思ひ志れて進しと猶くよ思ひ子進て
人未名りわつらはせはみなかなさけありとうら

すくして帝に渡り給ふ。さてみかとも、いと
ちかくしてみかと宮に申し侍りきて給ふへと
いふ御文あるなくもあるを、しちかく
おほかたは、うちさへの人々はいよいよおほしまさると
思ふくてもなくありなんとて、心つきなくおほす
とおもはれまても給ひけるありなん[illegible]
世はうきこと多かりしにたゞ世をはなれてこもり給
らんてしんかしれ侍ても行くらんかしこいへ
しなときしまゝ横川に行くなくれて
ましとおもひし、御給日比夕暮いと物思ひ[illegible]

うち給ひのおほしけるに二条院よりみ給ひて
わたり宿りかよひてひとりふたりあつかはせて
きこゆ。此宮りんてふわたり給ひけるいとかなしく
入りたちこそせてきこえ給
さはいへ、心の底はひとへにかなしきこと
多かれども、よそにて宮は女君の御さまのいとよく
思ふは給ひとおもひて帰ることおほすなれり
帝まかりきあ文をも給て
母宮君の御かたはいとゞむさんにて
わかれなりてもしかり給。女君にのみこと

のたまひけるハみかとの御ことより給ひしたる衣にうつさ波
しきけるたゝの様しかしたて給ふ中に秋
のこの時にして寺ハしまて給ふ給ふ事やうやう
いつまてと思ひ得て立まゝに宮にて給ふ神にも
御ゆきて給ひてこそ思ひうるはしかれはたゝちに海すと
まうしけれはかりき納しつかうまつりけるにて給ふし
給ひしけふるしまて給ひつゝ来て給ふにても
人なきはむけにしは思ひしけにしく見えつゝ
見てはいつもかのこのさまにおもひいさき海とひ
給ひておもはてハのちこそひ合まうてに給ひてせう

ともかくもらは御すさて、いとゝ給ひにもあらはいとゝ念
至りてみきうしとそおもひきかひくるもいとゝ夢のうち
此の給ひハたていとゝみえてぬかりたる給ひ年まてもなむのこゝい
物を見れハまいらせ人くさりて右近をもなと川
とすすめて給ひて給ふに此給ひのうちてあとの事をひたとき
よろ給ひもかはりてひとりの念を給ひ見しかさき事
のかぬ人のてあら給ひてこそとまかせて御り
給ふなり念仏のさうにて、たゝのかしまう物
ふてかすみたるかりきつれハたゝしく見
にもかくもかゝりし後の人の事も見えこたす

東京大学総合図書館

あやしくにて給りつるなむめしめして侍るとすゝめ給り
にしらはしむるおもふしいとほしさるまうしき事を
おもひしこの御事とみなおもしくちんなまんと申さる
されてハおもひて涙しられてつゝ承候さらにおなり
給て御らんありけるのおもてまうしはくてかり
しますかは思ひ給のまゝつるに今もえらし右近
あひてゆきしうかくてとよりしつゝの給ハせて
かはりのひるまむしさいりつゝと給へハ是まゝ今てあ
参りと覚ちかしさんてはゝ涙にさいりてなくえ
かくしくさてつゝあきつゝめむしみ地蔵なり

宮なんとちゝ志給ふ其比御侍こけてゆひつる藤
地まうすとして今よりひまなくしてそこゝ思ひけるこかり
あとは我ありすてゝそ見さるにおほくの命給ふ侍て
つおもむしのはまうんありてありたる故まうす世を拾くて
まいりてけふいと是の宮の給りしてらくとかり
きこてさる浅し我のてひらく五ふいうこて宮へゝお
らす大まつゝきここて御らひの中にもしこ両より
申しりきこえてさせ給ふ去物の中に申しり給ひにあるた
ともひまなり宮さゝ給ふんまなり給ふしのハ君なうとそ
何のいかきてしとをきてゝまうす給へもし侍なり

東京大学総合図書館

つまさの人あわつりまうそと思給ふにしと猶ひ
らく成御身の中の給ハむろくて此御心にも中
く御身さへりそてきんとくて彼よりも羊有と
おもしろくして吉ましかつとむしりそいとく
あしらむとひと思ひりてもさいり給へと侍へ
御従の君よひいてもいさいりまへと侍へハ隠て御
すみかにきてさせんとてハ桜二の世のとかいと桂ハ
侍りてハ花動給をあらはし侍へハもへまいらせ給ひき
まさ隠くの世にもしみなてまへのまいり侍とたのみせ
給ひしきこ御文ーくいみんまへて御身に契

よてハこともせ給ハくともそおハし給さまへ御かりの日
いふもくるに給ひとおもさいり給へてせしまし給ひ
そそハりし御給ていとゐしかおもきこ御はず侍ら
あらし世ありたるみなすしらぬはかへとおもひけって
まひりたるらくありこゐとせもきそてひきこつ給ひ
あるうらもいさありけむりハおとこゐれりかこ
なる人あきつに御事有てあるても御物りえれそ
うすみるのとらせてさつかいのせましハ御みち
あさ志のひろくおほしハましく人きまにてこそせきつにし
もろともにおはし給ひし道をさらにおくれみんき

もろ宮はこの人のまいりしときこしめすも猶し女房
たちはあまりうちとけてあまた具して侍らすまじく候
たへ御してわかうおほしけるありさまかなしと
かりしかどもせ給ひて日比おはしましける御さま
秘なき給ひし御有りし事まて年比かくおはします
くらゐを物給へ侍らしとおもふ年ころも人はお
おはしましてえさせ給ひける給ひけるや
給へとくらし侍りし若君にもくるしき御事を
しりたるんとは思ひ給へ共まん侍らさくらしう
きこゆれは御して侍るはみなうちのさきめてかう
もらし

あらましまして侍りけり物語ともなきてうちぬれ
りおほえたまへてあらし侍りて心得ける人につけて
世はいかにも御しくいとわきて御つかし給
御ことうしかしりしく御ふくさうしうとし給ふ事と
りうまてめされて侍るうしのきて我ゆゑよ
うつし給ふに弁にてうちすなれは秋にきこえつけ給
ひしそて君のみ年ころとききこえにありさまの
物うちはつ給ひせうりし人もしりまし気あり
おいさ清むて我りとふあまりしあてしつて
なり人のゆゑとは給へはさてうちいさしまつ首さこ地

ゆかしかりしを思ひ給へしハいさゝかもたえてみと
をかしてとききこえてまうでこし人とさへ
あらはにおはします御かたにこの世ならぬなてはゆ
かけさせ給ふらんみえこゆるひらてもこひと
よろひをくり給はせられ給さへに給はせ給
こはおもひけまへをおもへしりかへれて
さいは今はおほせらる程ありける何かよろ
てうはまうでゝ有様人ハ侍りけむ見えしかは給へ
しけりきわさかしと思ひまうでゝいつハ存て
うせさうしなきをと書かり志けれとみつ侍し
あり

ゆくふこ雨のふり侍りめらしく志けりなる雨中なと
見えてし侍らしらるゝのこそくてなこり侍るつう
しおもひ侍る御地つてまうでハうけはのてまことは
侍てかくさしのきつて[illegible]
ことおもひつるおほ君おもしおもひてならぬ[illegible]
程しりもしつこゝにそ心何けれは[illegible]
契りてさちてみこのゆりふきこそめらしくる思ひ
けあそてまてもあはひさゆりこはをそ給
まちこゝよ侍とたくらておほせしあるる小佛をて
はへりて後の世はめきも契しりなこつてよきすゐ

のちよりひかりとかたちよ御はかりこそたぐひなく
うこんのかしかくありけむ御事をうけしうきこと
きみつきせぬおもひのさ御しうけ給けれは、侍ことおほけれ
とくいくなりぬるとくてとありひつまてこそゆめ
あはてとみゆしつゝし侍りけりとちらすて御仰また
まいりてなり給ふしとこひ給ひわさ君きみとけ
しのびてけれは、つかふきてあはせ給ふんと申く
まいてすこそのとちもいそてこそもおもひめて
しはてなるひしかく御めやうなりゆうらしなかふ
ゆかしきひきてて、はるてと侍らむかくいたし

御つきしこゝろをまつしとまうそしておはしけ
れいありしさ御つきこてもなかやいかさ御しうれ
ほしきみとちいりゆれもとりとてもいは御はゆ
ゆふこありしとおもひゆらなかてのみよなは御きみ
とてもかくいりくきみとくなにおほかこうひりしみのう
てうさ御おもひしくきこきみは、おもひつ画きつる侍る
いとさ御ありけんつゝそなまでは御ありゆえかもして
ゆかしにとまりけり給へく宮ておもいしなけさてな
ゑりなひとある事てのまへて君のまおもいけ
くりぬしこゝろひはそのつゝみてゐへなをとく

東京大学総合図書館

おもしろきにつけてもゆかしく侍らしき
こと御覧ありても此人はしとひてみきゝたらくをゆきて
き人はゆかしてありくて歌よみの人やあるまじ御あり
ならじさ給ひてしかり侍る人我とも思ひけりとおも
ひとつなりし事ありし給ことハちとてもありしと見せ思ひ侍るや
給はちらまほしかりしハひとたびぬまありて名たらぬさハ
し給へん我もえんもえんと給ふしきてと乃給ハぬく
あしく給ひハとてまうりくてなとたつきこ
しかしならむりそよりあるあは寺さ給ふそておもひそ
給つりし人のよはさ今まで女のゆすまでひの給え

いはれ物語のさまざまをかりあそびむかしにたらく
わかりおいてますとまもら共ってさせ給ひてりを
よりみ此のゆかりのあけさ御さへおくたち給つて給ふの所とら
給ひさ給ひて時ともなかなり給ひて京の侍り
志ゆ此夜ごとに侍ていの給たる様とおはすわら
かりしを此ゆかりひとるる番ききさ給ふまうす新
ものまさに待しかくてたつ御人のよめのう
様しまても小野の給へ侍る共のおはしてた山てら
らうしてにゆきこらま寺し共りんやうち世給ひん
なと御侍と給ひさまり人給ひつまんてぬゆまつそこ
ゆゑ

なかなり。さる程に村つゝきまつの袖こりしめかゝらう
かうしけりありけるに、いさゝかおもむせらるゝまゝと
よりて物の心ある人々しきは、御中人々の御
風しきさ海ありとりけしれにゆかきとも御し
ともかち久しう口惜うこそあらも御おりしよ
んなきめありとめ候えにうけなり給しらせ
是ると人々すみ候てみなさしとめとらん川よ
とりわけも御心を広のあらくとくこの命わうれ
りありても候の小さりなけりんをまおもしけ
てみんとも孫ありなけきこ給しかれきとりしり

はうり何事とかく思給へるまゝ悪御行侍ん
おふちゑれくきこゆれて、いさくの方の方を
御かたる袖ともてなくさ海し侍らしけまえて
候ゆかてとらふてまゐ給つゝいゝてせらくせ未う
わか人給ひす我いなにいくとて海の緒君なんとなりつ
さ海よりておさなりつる悪様なまえ大事にはうと
思われもいさくて人の心とくましくうとゆれ
さ海よりてありて、御未あらくとゆとゝのと
絵つとくはつ成ちうゝ小見まゐ君の人をそ
中くわたゝさわりなるとおもふ御年進しいはへくま

侍りしにも人とをくあつかひこそあらめ宮の
御かたよりわりなきまでめしさふらはせ給ひしに
けてやいとうらしくは人の心をみとりて給宮か
またはつ様なりあひみんまゝめさふれてかの御つて
うしろめたかるらんとおもふまゝに我まいりにまいり
みえしうちと給ふやうにふしそまいりて給て久れ
とりかくなりしてもいとゆうきこしめすそのうちに
けるにこそ給ふまゝ右近をしをくりて御衣給なる
めでたきあるあはせめでたきもの給ひてきこえし
又むかしにこそやめの色ののちふかきのひてわたく

ら殿給ひけるをはなし給へとのたまひけるに御様をり
いりおはしませは侍らし御手ときこえて
さ殿給ふかきせ給ふききそれはおもう給てかの
御前の宮侍しこそうつはわかうせさせ給ひしある
かくらとなからきこしめしておはして御前に
御侍てきこゆ助給ひたゝひ弁内侍きこえ斗
より喜のきこえて給ふしは文いとあひく
侍ら御らん侍るてすも御内の弁侍と
かうけるくうちそ右近の御をかそ右近ちょて
せさ様ともひきあひ物つこころやすくつれさせ給

しんう経しりはつの事ハ、み給ひてすこしきこえてさせ
ちう、ハえん〳〵し、まかせてといふし、いと物をきて
はしくいと折おきつゝ宮ばかりしもお給へ思ふさ
ちゝてもこ神ぞたばかりけるあへりおもハ、給り
みなさいきてあきつゝしわ[illegible]とお給ひあくえうれし宗
あまりもいそ、此水ちりきこえたり山てゝえて
よろしりたむらしわつおきてふ浪きたる上給
海しハ、侍りんをうかきをる物しも侍てかゝる
とおもきこえ給ひてはとめおもしもいてしう京さ
きたのまりるかと此河のうしは海しこう、おもひ給へ

と侍り物し年比の思ふらめありしかゝりて
ありき山路を分けりししハ、又えうして此重
各[illegible]ふえきつまいし大ちゝし給宮こう色
[illegible]給ひしりしもたとつけそうありしさん
ゆしうたつわたるやまぢうしきけるへ今と
思ひりて別ちハもてなつかしきつそう枝ふてみ
ちうしろこもいとあやしく年そきこてあれし
みなをのりと一中にありつゝとくりしうきて給
ちるむいふ思ひんさけりみ今こそそみ
いとかそこうりし今と此ひあへてハ[illegible]をほし

東京大学総合図書館

えまして、我ゆかりに侍りけるを、此悪女のまん
とこそ思ひけんかしとてこころ川ありつけるを鬼共
をまことひとへに鬼とはおもはましけまてゐるの
人々もあまたはかり給ひて四車の志ちとりく
はさしもの手人めすなたまひて思ひまけれはいかで
志けきこあるには若様ましてとりわけ
い浦ハちてとききて身へこそ心よりまちとなみさく
らし給て
我も又うきあるの里とおもひて、いたましく
本にも此かりけれ悲しみあはれいさよ鬼しけるなり

かくて此法華のこしをききてさ給ひ念仏をこれ
給ひてそ人々に申てせさせ給ひつついと物かたりわかくて鬼
我もえ給ひし人並みてそをさせよ人々に七日くに綿仏
ら屋くをえ人並ちしかしと出海かり給ひていとゝ
らうしかりつる思ひ給てあり浦しへにこよひぞ
浦も庵をとはことあるしを海にまてせうらこせさせ給
つまてこいつてもしゆかしきこ月をはこ思ひ給へしに
ていとゝ神と志給へらすゝまゐりてなんとの事しく
こ給ときつてていて出るは志かそもかりけり給
斗す道をくらうてむの屋にうり給斗すなりまくる

津屋しら松のくくられき白洲のまへり、紀州に候
ちきに給ゆかりをわからぬ孫者かさましくそて
左こめうとハかのも清してハつまのうこれかうせ
ふきし申候ハむすと左のゆかくお賀すかれたて
君ハ京ヘりこうし奔りしとめ此ちにしりつゝ志
御たけハまハの家のしてえハうにたて給ふの様
ねのうにてとひみくさむしおりもおきつに文そのい
あつむと思ひてゐいつつのうらてにうりゆへけまハ
えよつ次郎りのへのう色てお気なる者は書候よ
ひろくせくて大抑あしりゆつひ思ひてくあり

推おうしめ包ちかしいとうまつく家しかさ候ま
手ハすつ奔こてんと思給やとゑてなつまうりて
しうきこうらにくさいそ偽りの左こありの候とされし
給りむとそれ程をもくつゝふたの都て見と
御ふねのみ世み心世のつ孫希候ハうてさての
とめんかさりくのこ候と思ふの外ふてあつく御ハ
色めし老残といふりくとさうゝ合こ手ふてゝう給
へすこ廣りのを奔り給てゆつひまいかのおかくて
此大夫をそ色りなの包はとふふう何と思ひつ年
時りさへ加さなの程あすうちし包候しおの座う

東京大学総合図書館

あり八三位ハ侍りなし法まてとハさよりの後何事よ何
けても物をわかれ奉てつし又の名にと「
程もなうとも身に候をされき人こり何物とおも
思けまつりまらしめしかうとうもうと思へ
見なんまと出ても慕ふ物も程侍らせて侍つるも
御きき宗つひなまはふうも主侍うなと
いひすして昔のてよひとへてつり此道なくくく
侍らんきみせめしをまを待うのむ命とのうく思ふ
給へおけき侍りよう法者せ事見んゆへりなりや
とうし身法ハ心ほうきこわりき法とえんなへなうそ

出ハ都ちよめのきこてつりよ思給へおすつきき
志けなきこれひてて武将末なう政ときて侍し
り八海のひなくえん給ひてハ法との契りしハとむ
見の物見なましき海くよう程しききせこに
為せひ侍りてハさまつくなり侍ハ御法とさ
出給へ身りよのそれ思給つりよう事てしかね命
渡よくれくえきてさ我申とをみんなと侍り
つひよう思てのくなとハみつ前つき程しあ
物なりもとへなれハ心君よなんと心法てう
思なりよきこえんさハ出ひてしらおもし身なと

かく語れハ道て車にめし程ふ堂ハもし此命
惜しかりとて、むかせさくもり殿に宮つかへんせ
させ給ハヽいとやすき事なれと、わか君の御事をたまへ
此つらわ、ひ給ひ思ふなと、いひ合なく弟の
君の御事をむかへ給ふへしと申せハ、おほせ給へ
まろかいふてもうきこと、まことねかふめ程ハ仰くたと
もつらう人の何事とハ、申せ給ひて、御所にさ
持ちもとてこれさらせたまひて、さかつきをとし
あん持しなりつるときこ、めけにこめつまするかゆく
利もつひまうわつ人の御ことを、みそかにてさけりけれ

人のむすめにてまいりけりやハ、おほせられけるハ、人の
まて時の殿のはらんとハ、人の御事は、からこまの
只、人をこそ何見きかよにふり、めてたきことらら
かうゝるひとつかひ、おかるゝるものむすめのかかりと人
のいひまゐらせ、むかしわらはして、かしの君の上けるハ人くお
利そなたへハ、こそあるへきものゝ御たのみつるには
てあつかん君の御ために、みゆるかりつるそおもひて
しうりをれと思召し、御所をよろハ、たのもしきに
きつゝしおきは、とうし、いひりハ、ひころなりこと思召う
こそておりしもなくて、御語のことみゐとそなたへ

東京大学総合図書館

年比ハほくてうみんおやこもろともありのまゝにて志ゆ
管領なりけれハ、ちからなき次第にて、おやこすへんと思ひし
ところに、京よりおほせにて上人になりて、ちからなくはかなう
てうをもせんと思ひけるかとにかくれはいつハりくさんて
おひまくりてありし所にくるゝ大将ゑん文
もうりおてみちれいより人のちうしてひきし
わかてもろ人そておもうわきこゑしてすゝく
いとまてよれいさいをひともとて上世話はなけ
人にかきのまゝもみなそてさりりつつまん誕
此くうしつゝつきもめくいとけてくおやこのとじ

わかきこともみなのこともおほせられてうハ毎年のしき事
なりきしあてよろこひ称とかくおうけ申しておほせ
ましうてと思ひ悔しまうひてあるかくこしころん
くらみきけるほとハおほせて世ハ中くうはた
ひのくしもうら称ぐ武内しもあり寿の我
あやまちけてうしきひほとゐしほとゆしほちし
とおやこ寿より重人のきまい称ちかうのと
おやしなき十九日みうきあそて勢さ世話ならいう
あまりなし事ふかハとおやハよてもくてうつこ
くまりきこと身違ハいと志めひらくうりやしの

東京大学総合図書館

まいりて拝させ給ふらん千とせの寿をのへさせ給ひて昔
あまたきこえられけるか、ある時きかせ給ひて御
子つゝ宮よりハ右近のもとにまいらせ給ひて、小
金ハまいらせ給ひて人のおほせにしたかひおはしまし
けるハ、えらはれ給ひけるに、右近のかたへつかはして、こゝろハ
給ひける人々ハ侍りてかくおもひきりかゝりし人のこゝろよの
人々ハ、ものまうしきかせ給ひけるに給ひて、御返りこと
なくて、拝み給ひける人々のなかに、とかくありける
人々給ひてまいらせて、今あらためて人々のこと申
ならひてひとつのこゝろさしてありしかハとかく

あらしと人の見えたるか、将のおほせて侍りし
きこしめさせ給ひけんと申ことに家隆かたらひきこえけれハ、と
をもしろくおほしめして、すかたのあさましきを給へ
きこしめしつゝおほせハ、いとあはれにおほしめされて、はなちかへ
し此ころのおほしめし、すこしはなれてけふのとちよ
みきつきみたりハ、さて御申しハ秋田かとまう
此色くもあるめ人々のつまりはへりしを見給
宮のうへにも御覧し給ひし七條の宰相の御前の半
はを給ひしハ、いみしくはへる人々のこと給ひつかはりと
みなとよそにて、きこえしかしこへあかしてハ

ありつる人今宮わたりしこまりきこえてゝく
とのゐ給ふらん御心にしもおもしけるまゝ今
宮の御中ゆりなどおはし、まれにおはしますほとの
みちゆりかゝきたゝしてゝはた侍らんにけしきもかれ
はれなるをかしきさまもやすき心に給きこえなくなりなり
かたはらくとりゐておはしやうやうおもしてゝの
こゝろゆは人はうてさせ給てはるゝは物にはみさき
とをちかくておはしきこえさゝの宮はゆきやう物
くの給はせはせてまゐりしまに二の宮はん
式部卿宮はおはりなつかしうてつゝほに

またうち給ひて此宮はかくしたる物語の侍
に一品の宮は世の御おほえのすぐれてめでたくおはしき
今はちくさてゝえまほしき給ひのお給へり
大将殿はうちしりてはてんのをもてなさせ給へ小
宰相の君にては物人のてかくきこえけし
心をさはやかに此今をおほしたる御かたにおはし
なお給ふにつけてもとちらをもて今はさいり
物ゝ御文とかの弁物たちはとりよりかく御気
御むかへにまいりたる此宮の御返りと侍へき物
み給ふくれ一品の宮に御かたへとまゐり候し

かくしけるほとにこそつく祢んころに宮すゝと
御方へまうて人々まゐりてあかりとおほすゝみ
有ける物語したりけるにけりけまへ思ひゐ
まりてきこえけり
おほえて侍るは人々まゐれ祢とも祢て御けし
きつゝそ帰る御手ほとを御せんあつかひ事
物語のゆふ暮さまやの前栽をいとゝくよみて
よりて侍しかるをみてゆくうちに
つれ祢ともこれを見るはをりをりにけるを人々
知らまてなけきやはとのつらし思ひ出ありし

折ふしはらうたし御すゝし立まり給ひしことに
ありけれ物かたりけれて御覧してやうなるとまか
くし給ひ人々も御覧してれきつりいとゆはつ
なきこ侍りしうしつれ給ひしせちく前栽
ぬれ御座りこそまりた給へつきて侍りて
おほせてさまうのあまりひとしてもあそひと
よ記祢りたまとは心のうちなとそくいて立
ちんほの物そわまて思ひ侍ゐ御物をとおほ
きへてもあきはい事ても見給給はすそらに
其前のほりてゆえくせ侍六条院の御たか

業の道なしとなるなり　御前つ経佛なとく
やうせさせ給ひ侍りしくたうてなん侍りけり
又きさの日なとは、いろいろの祈りけまハ所
毎の所に女房かたつきそてさりてもみなの人おな
りそれハ川をいはあさつゝまさてみなの所り
ありさけの志川らひありたしかにまきてかひなつ
ゆかしきとしと見え侍りしハみなり立て給ふ
ことに母のみこと姫宮おはしましける物
きこしめして女房に仰せくつかはされけれ
此人ハいと人まくさ浦々くまで大納言な姫

きこ道てみまうつくしきみなりけるかき姫君
みなれ給ハりけりのなふおほしけるに
御そてあまハいけのふかすみ給て人なく
あるくハ梅宰相の屋敷しかりそらに本院なと
いりまてくら屋としら道つれにまきて
やおかん人のきみのくとまいてかしたうの
くこれちうしはそくあさきみなり屋なと給
道ハまかさくの人のみかけりひまハ母す給ひて
まつひくれハなうく本院にみそちそへなあは
しりかへとかさいくわかハしみなとなと梅つくり

ときゝてまめ人とてまそはらゝく人こそおほされ三人許
あるかしかなりけるきあかもかくもきこえすなる
うちこけいとれいなき人々と見給ひなしまさりに
りみるゆゑき給へり人々てふ記とりちりそ
くあるを捉をとこ見え給へる中になしもとさ
ゆくてはいつけし心をあはれなれ人てうち見えれな
ならん記ゆく物なるしうおぼえゆかりてかあらん
をとこうるさくそきもひとしてひまてみ給ひを
思ひをかなる中からうきゝ人をみあはれまでとに
時人てあるかゝりなりとおぼゆるまなる人は識り

つらきことなれとまろうとのこととおもふ志はありてみまほしきこゝろ
をとこなりし人々すくなからてきてつる人々あまたの
おもひさるほとよりいみしくもやとみ給てみて
中くをかしみ給ひし御物ゝけしたちかたら見ん
みなしこてゆくひとの御こゝろいさとしはしきこえたり
殿ききてたゝ人となりとおもふやうゆかり
てまことにけうらなるはしらなき心をまつ
あてなること御ありさまの人をなほ中なる人
なこはそみてゆかしかりてそこにもあたまを
いとさらにききゆて給ひつゝのこさせ給

いかにもうつくしくしつらひし上臈の数々いとめ
うちきつつ紅のいろめくら袴しかも御さいとむかへ
打つ御し稚ま神も松乃色に志つて見なるら
時めてさいつらひさ四宮様やと見なりしうれ給て
これハ宗をもさふきうちりはうしきて使わら
神佛のうら給わ見んを給つるまん主井乃厘を
うつす松おしいせんとすらめやあらむとの八志川
色みてく御ちり給くうかと出れくのたいの
山おりて上すこけつ宗らうめ参乃さ四内うし先
これてとふそわけ参らわぬ給をおりひとそ人

ときそ見んたけくらへ御通りと申けれハ御とふら
これ程のもとき見送りて誰かんと思さき
て我らか語みな申しますか次のことわりて
きたにられたかを立ちて誰としてんなしを
聞しき風か吹きとおりひく程なれ難三の
とりて八使にし聞わさるかこ本院をさへあって
ありけるりて二ろうよ左乃大臣の君さらさん
うちきに人もくるまて人々かしおほ給の
きてあらハ誰のなうしあけそうり志て参る
もそて聞たてもりにまいて御いをるしまゐりと

東京大学総合図書館

見てはるの人々の御もとへてまゐらせしハえ人々てきてつけ
給ふあはれんてゆくへしらすしてよりて御命やく
ひらすまいらせしに心とりあへつたへ人々をやすさ
かな御せいしんを人々もあるかしらぬかきうしろをむきこなた
しつしゝとて此さき山へりいとこなてゝもみよとまし
しや、なをも思しつゝ給ひ宣旨をたまはりて
無法なれてよろつをゝやと思ふはかたし中く御
也つゝのひかる人々わさてそ心思ひつゝそて
むきすつゝの女房たちなゝうゝゆくおかしけなるかハそ
しりあかしきまゐる人々をあてゝ見ておもしろけ

給ひすゝえまいらせ給ふさ御しきこまいてあてゝこえて
いてたちしゆく海るかう人々のとゝいうしてかきくゝた
はしてにてあやしやさしけりうすきゆめをかをま女ハ
まいりあやしき山てるそ時まてはるそてかしけま
とそてあやしふきゆうて大かうけちかのひと人々のそ
あひくさいまてなとゝ給ふ人々のなゝいつかくら
はいえんのきたりまかれいまにとをりてたゝきこ
え給とをしうこの御ふかのいのりて給かゆくら
おいもすゝしてひろくわかり給へる
の給つゝなげき御まへ結ふ其のすゑうりあるそこハそ

まへの人あまたくみなとこれをみなしりもめきさ
まつハたうそくにあまたゆかりし今ハあはれなりとて
よろつこと世をすて給ひてうちのみちのあまたの御
御井しやうみなあまたすそみとはれをかり給ふ給
とかたさ給へしなりまへやおなしてあまたひとりて
へよろつ世給ひりてひとりなりなりし給ふの
うらておもひし思ひなきて人みなの人をおさへやあり
ふ御内にてさいはひさかんまにけるかおほく給
そうしとおほくの御ゆかり御なりてわかれまいりたる
御内世にくみなそてまへまいりくハとおほくゆかり

御みてあるとをかき家のれをた一品宮よりつかへさせ給ひ
給ひてきこえてあかなハかうけりし時に御めさせ給
ひしかハきこえてしらぬ御久しからてあるとを
の給ひたゝ人にうす世給ふありとてつ様よりも
きて見てさ越り給ひぬよさそハ御うちはこしおほく宮
此御事人そて懐さこてさ給ひとけいそんとの給
御くらりみんきこえて人をそてと給ひ人ハけおほくあり
ゆりめてりとておほしおもひすみまりと御まへハあ
とろしきこえてめとてそハきこえてかくの給ふの
日ころして又のあしたまおほく宮にまいり給ひぬい

東京大学総合図書館

此宮もおほしたり丁子よりゆくをかへらせ花の
いろをこそめくりかへしよききたまへるこの
御けしきのかはりたるそこらのきかはおと
らすさへきこえて猿ありし色いろやを
給へいとみならひありさまし給へりとみなうちさろ
さへきよげにおほしきてまたさはしりそた
ゆゑしりハこよしき恋げにおほくかせく
さこり給へりみな母分して行方ふしきを世給で
まれはわつて世給の大将とはくさかりより給て此
ちかき比あるて御しとハいり恋への八ツ年ちこし

きこてはおりくの絵給たかてここのほかにおて
やし給ひこれ宮のう色ハ重て見えし給ひそ
いましうろん給重ひを宮のいつくしりにせうさこ
しおほしく恋那ゆくまま色給ひのおほしときてさ
世給への屋つよ思うてむゆゑ宮しきこゆ給ひ
とやうの此時との蒔世給ハおんなかりしつ
おほつてうそゆりんつくみなひも給しつ
との給へいおほ色かそてうとて英二て給ん
うち小てハ此うろ恋てりつさて此ても我こて
かうひ給かりしとたくまかり御おりかとた

あつまりこそにくからぬは法をもとめててんきなり
しかれともさて給ふ経よりは仏んしかはりと
よりみすまへ給ひてはらむとてしくおもひつくらく
作まりて仏へきこゆりよせておもひけりみすまへせ
給へんとそう経しをは御へけま御てきこえ
そて給へりけむとは法をてさせ給へんはりき
ことに作りとけは勢させ給ひてりく
きあ法かはけおもひしけさりけり三車にて一乗
法花に人へはありけりわり給ひてあくさ
見んしとおもひらるまへとあるにわりてめし

三論におゐて寺を見んそのうちみへはおほくふように次
けにいて三論よくきこりおほりそてはりますすき
よのつとはひつり人おもひよりの花厳しかと候て
法は法こひすまは法相のまへおめ給へおもひく
有ふよりかくひやうとの宗んは法とのこと
見候まは仏と思しめしくおもひありひをそてめし法
もちし作りとこそのみ思ひあとて作りそてきん
ありつみすてわりき人へてそこそよろんしと法いの
君よ此ものそ見んやり給へとりよりさせ給へそ宗
まよりくをせ給まへりめともにぞいまた

のけしきにておもしろきやうに小宰相しきこゆるこの
君はまそあはれなるにうけたまはりて世をすみ捨給ふと
思つゝ思ひやりまいらせしはかなくて二の宮は御物さ
らわらせ給ひけり大宮大将のそなたにまゐり給ひ
はらからにて見給ひつゝてまさりける大納言の
君小宰相の君まゐり給へるにそ参りつきて
きこえまいらせ給ふ人の御すかたにさふらひてありけり
まかりて見たまへる人の御けはひはものゝひ給
こゆらんかし二宮の御方はいとらうらうしけなる
給て御かたちは見まいらせし大宮の御かたはらにつき

人しらるおもしろく見なれ給しをおかしうおほえ人に
見えさせ給てつれつれとおほしめしたりける御物かたり
こまやかに書給て書つけておかしき絵かきて
御まへにまいりてうちなかめてゐたりけり御前に中宮
とこそは御おほえ深くおはしますをとおもひてゆく人
そこにおはしてをかしく御かたちのけはひきこえて
にも人は宮をわたらせ給へいと見えてきこゆる
しはしそはおほしけれと給ひて御心のうちなるに
おもひやりにて人をとおほし給ふもあはれなりきこえて
きこゆるにこれはいかにのいかなる事にてし人は宮の

御二條のゐんの御方よりいてたまへる
我しひらのさ北のかたをおもひしかいはなちてまいらせ
給はむとおもひ給へるは宮はみなみそむきたる女君は宮に
さかひて出し給ひけるは大将殿やきてさし給
あり給しかたにも入給ひしとて参り給へる人
あまたとりて宮にいと思ひて
し給ひなんえりせ給ひすへきをさゝ給はり
馬なりたゝせ給ひてそ思ひせ給ひける女も宮に
きこえてさせなりは儀にきこしめせなけりとゆるけ
あまたなめりとてしもめみえたまへる人たちに

みきさきとひ給ひけまてむしきこし宮にいとゝ給ひしと
おもひしてたまへるほとは御ことよりの宮へ
きこえ給ひけなるつかん中納言のつきてあかぬ
宮なとを大殿にさやうなるはそてよ中のけ多くい
うしおなくうら宮にそうひのうみしたり
なる年をこそいうらむしとおもて給ひしとも給
侍やけとは宮しきりむ御侍ひ給ひ給ふ
給ひてかしこに給ひなるきてわかゝ宮に二條さい
志やうくにいそ宮にてきてたしかなる
こそひ給ひけまうくあやしうて兵部卿宮につゝこと

東京大学総合図書館

人はきこゆれしかるへくしおきてやうかはりとて
侍らしかくてあらはこそとてさてかへらせ給はゝ
きはてなるやまかりえんときこゆ女君はいふかひ
こと又すこしなまめいてよき人よりあはれなりとも
てうつくしき人のはゝにつきたまふ地におはしませ
御きこゆなりといへるかおほかたなりけり姫宮
此御かたより二の宮にみせたてまつりてさまの
御みつからいかに案しわつらひ給ふてさら給はく
くてこそつくづくみつかりけれとおほしなけきたりし
中納言にておはしますも大宮も今はいかにてか大将のけさの

由かりておはしましはしめてまいらせ給ひしは
此大将のと若君此女一の宮とかくきこえけり　秋の夕暮に
おほしめしていてゐきてつかくおはしましうちきこえは
いとらうたけにかうせられさせ給ひおほしなくしく人めん
あはれにて思給ひてくらおはしき
　おきこゆ此葉のうち大きなる秋風も夕そ
わたりてゆるはおとろくまてもかなし
おほせしさやかなる御身のこしきさまにてとり
うへいとまかせけりよろしこきこえて
えはかなしくいかにつくりなむと

扨思ふ心のまゝにては昔の人の御歌はましかは
いかにしてはらの内に心をかけましやとさぞ思ひての
むしろの御歌にてこえてそすまでゆかしまゝゆかしけ
思ふ人ありときてつゆかしきははなこそもなきまし
とるかひにわか心にかり御歌ならぬしめるかと思ひけ
まりてハ又言の色まさりかくりて思ひしらむ
つらてわりなき事そとこ所にきまつて命
きそふ思ひまもりて侍つきこそりハあさましくて
らせめし人のいと心をさわくらてこほつなかり給ふ
ろくしさはハ思ひおもしさすにいふらしとのを

まじりもなく袖わかちましきこえいかにはしも心なかれ
まなけき恋にて井つりもあり歌をきて給ひし
もとの物思ひまりかけてまてたて心細く
給ふ我もてなし人そおはせんと思ひしめさ侍と
らうたりし人を思ひりてハけハ宮中思ひきこえて
しめいうしとおもひしたて我あり歌のよろしぬ
ねこてりそなこともなり給はしなから心のとかに
歌よくおはする人今は心のなさをきこゆハ此も給し
きこえ御心はかりまして給を言ハましてなくさめ
給つくるこそハあはれなるに さても給はむ人

ち御きつけ玉ひてはゆゝしくこそは給と申給ひて候へ
くも見んなまし給はちりさうらふ前世のつひなれそ
いとあはれしといひてひはあんきとおほすまゝま
よしや候へしくなき世給へんにはくさちらはゝ
てうしこそありし佐藤をまたのし御き給へら
三郎御てはきちりてたはせてた御まうなし
ゆりわらせておほしうりしとまて佐藤
いま御かせてよ給ひてひさしくありけるよしいへ川
のみやこよりききたるへつゝとたのみし様そなく
ちゝもえしかくいふ見えぬ給ひくのこまれて

京よりまんなかのきこえありせはさてかくてもあるまし
程いて給ふくさて出御をのかたて出ぬはさうの物した
人のかへりをもしまいらせ給ふ南より申ていたく
きつていそき申しあへとおり御はうあしきつてこてを
ゑさいの言ゑまいらんとしておもはしけられはいとよう
ゆりさせて人御ちかへおほしゝはからすも世給世なり
えやう／＼よろ御きつてなくさしめてそ給ひたり
りきてまいりぬさうられけるてよろしけら
うちりとゆるして人ておらす太刀給て参
了まいり給をみるかしこと云物ゝ給し候也

せむかたなきにも、ひめ君のこさらにおひつゝくにこそ
人々は猶さ屋しくらうてみておもてこそすくれし人
ありしかはおもひかけすとおもひたりけるせ給ふ中宮
式部卿の宮なからいしかは大殿のおもふにこそ
おほえて世のつねのむすめのことにて人々もおもへり
見まほしきにおほしけるとて、いと御心ちも思ひあまりて
さる御かたにさ内侍のかんの君はときこえつゝありたり
ありていと御心うちとけ宮はいみしくうつくしう思ひ給へる
女御の御仲らひはいとゞおもいまさりてみさ君の給
大殿はいとゞ心はそくのこと思ひなけき給はて

ありしかくちみち孫の給ふへけれとみかとにせさせ給はねは
もいひて此事も人々世給くさりける宮のかくては
いとおほかるに御程の人まほしけれはいとくるしく
またさうて給ふきつりあまたは宮の君をたて給ひ
てもなかりけれの宮給そいとあはれなる御宮
たこれ右大将や無きき人よりまたけ人きさ内
まつりんとなにはなるかくそうもあまりなのに
人をこの給ふにつらそても人めしきたるせりまて
いつしとかおほしけ給まかり大将もうらさきまても
ありわたるもかりなるてとは将軍春宮にも人よまきまゐり

わすれかたきことはさせ給きこしめしけれはきこえさせ給
ところ/\とみゆるは松のしたにて出ありつゝつゐにおもひ出ても
とりかはしつゝそれをとおもひつゝ人をはよ
せさせてとかく六条院におはしますとは行かゝりも
りつゝあはれなるてならひよき物はしてつゐにも
しはつかし人のみなくさめけるをつれなく
とおほせあはせて廊のまへにみちひきて左右
なもしはしけることのほかにすることのありしも
みくらにかよひつゝまつり給へるかはしくみゆるか
御そうかたはみなしく人々より色は満ちけり

中将は涙おちぬたゝんと有なるに宮の御前に参れて
月のかはらかに侍りける紀中ことも志いて給
大宰の師の志のてまかり給て今よりのつ松
いつくの給ふはなる中将ゆるす文宮の君にむかひ上
はるかにてまつりありき給はれはひとりの如
ねよそて宮にまいりまへにあはれ給ひしを林ゆるの
ともろの御かたちそれをとわかき人々は
かりてみなさりけるゆふこしかも月ころ
てしあるかけてたへ給りしにけまは此
宮うちかはらはしたなくてそのまゝに給朝夕

かゝるまてもきこえいさゝみかとの御前に給ふて
大将の君ハことにしりて北の方に給ひて御覧して
きりしうおもひゆるしみ給ふものはこれおもひまいの
あまたありける給てきこえ給ふ給ひ給ひける御覧ハ
ものゝいのちきこえつゝにおもふもしくあはれにて
この御けしきせんとて御覧してよにもおもひ侍りし
しはさ御身をも給ひくおもひりきみおもひもの人
小はさはしりのさしけてきこえ給ハいとあはれ
まいらせ給ひとかくてあへもとのゝ御宮ハいとあはれ
うつりゆくなかりけり[illegible]こてさせ給ふハいま一たひ[illegible]

いそき給えつけられますゝきこしゆふてゆふすくさて
おほつしとみえきこしこきへいとれつしんてをあは
よのにあきこゆひたらとくちふへあまてかて御覧
おもしおひ色のりきつとくのにおりしてあたり
まそ女房ハものまいりと新て色きや女房のふへや
なくハよしあはれのさすふに御覧へのし事とて
きこてあ色ており色てくみえものおはかれたゝ
あんの給ひしとは給へいとふ人めて給ひ中
に年もりとてまゐりてのきこえ給ひて御つ前てに
こゝきて色へかりしあ給へへてらきまて侍らぬ[illegible]

ハ橋にこそハなかく住まゐけるおをたのみなむ世
ホをけるなんせしはかなくかしも侍る様にも身おもてなく
はくりそめてたのみ給て侍んとくるしさてなくなく
てまんときは色まいかり色きゆへおもしとおもほ
ため給てけるこそ見たりけれあさましきてまいは
うきよハわきぬへきとよしうらうけくてすむ
しけるかな哀すむ心地はかなくてこゝろよりかすかに
比も思ひもし給てりそおもひまりて石などくへは末路
のあはれよとそうけれこゝろハかそしむきこえしあけばと
比かくりきゆくそうてみちくらしらつきこゝろまさ

と身をつくしもしてすまりいきとよせく
なこそ色もにあらて野辺へいまはなこそす家の
あらた君代わかまかけるやもしもとくハおもふきてもとた
比はしいようら後あるへまみんせむへハ木とみんたる
きこえておほしと世の末比とやうりいとく
哀とこそハ君そはかてるまもなさる色しなるへて都家
まみてれ色ハもろとも給ふらてそもかかそハなきを
よしつきておもふらくやもとけまハ沼やみんとも給ハ
南まくみかりたるみちよ物ふけられなくさてもまり
かくらあるつしとみ由無のりとハいそけさやくなる

東京大学総合図書館

おきつれてはにくゝ侍りとて
権現にてかなしさよおもふ事侍りける事
うりうつしとさて暁ゆつきてさせんとも
宿々はけり程は稀なりし大事なる花うりなれは
めりうてもとあまへはあにくて行りめさせ給ふおもふさめ
色のゆかしらはそれもきこてさすまて〳〵は様をかきにと
とたちまちてはしつて人は訪りすゝみ給ひしくのに
さりきてくり色すしみちあけ侍りまんとやうそ
もえはあちるはせ人のすあらぬ人にきこおりみそうり
めうとて面ちはて給へはおしくくうきくはりまんに

と思ひ給ひそ色うけまいらせつゝ人にあかりしかんし
めうらんにおもひうりて夕霧はなほ今の花の
ひてうておほ人の事もとかへり給ひ世の花
あうてり中につかてたゝうちに面ゆかし林の天とい
ねことはいと恋ひ色ゆり恋しつかまつり侍りつゝ
きあかのとるひたちん事なかしてりやの御ゆかし
しかりと御りてあはれにいはし宮のあるにおいへ
してさらりにあへくまさりつゝは面そとて出へ
うかゆくの中将の花にきこゆあまりにうはゆうの
わさや誰とうれかりそめみとめちと思ふ人に申て

くゆるけふくさここゆの露にしよ[illegible]伊与の御息
所にてハまれなるわさなるきわにおもはしなりすゝ命なるも口
おしおもうらそおもうらはかりてあてか[illegible]女ハさに
いそすけなるめてのさうもくらおもしう所ゆかりにこ
猶しくたうしはあさはつきいそ所わかりふしに候
はしうむ人ハいたいまし[illegible]紀伊ちん
とこうひとりて我思し[illegible]たまうすに
もおもしるせすん[illegible]にたにせ[illegible]人秋の[illegible]
そうろう[illegible]くたされしくくいとるか人のえ思[illegible]
つゝてたいかにくゝみゆる[illegible]とハ[illegible]きりゝる

物思ひきこてそしんなきしひひよおりの[illegible]
はおれとい[illegible]にしとおもひしこゝろしれなき
地なりおもしきりうそありくて[illegible]し[illegible]
わかせある人ら此中[illegible]わらん[illegible]そ
猶く[illegible]いおもひめそうし猶[illegible]つまてあると
思こいはさきてやまとおもひい[illegible]つきか
しまいふし[illegible]のわつれとありしますひてわさ
とおもしうきあ[illegible]宮[illegible]ハ[illegible]くるこ
らせ給けるハ人月[illegible]とそひわつれとを
けてしろしろうかとしなりゆのことせ[illegible]

東京大学総合図書館

りうきこゆ思ひけめまよりおもしてあくとく
神くましうかりける事しけと御前にまおと
御らん人のあまてとこてわけりとくなさ思へ
まうし世尋おきあそりてまち人さこゆるく御へき
といふるの夜中ねへのなりとくるといはのなり
ありますのそゆけくるみなしるれとけれおり
とも成の給てまいへのはすてありますへきりか
まにわさはここれの里すまみれ桂に世の御給のと
いらきわくよと御いはくそて何事をいたてく
くるまて出そいはくさ世給のまてといかにおもしの

ゆりの御か中にをまうすへつたりなけきかなしき思て
しはすにお尼とも思ひ人いそとまいらし
すいおちらとこそれてはたるりのきもし給
かうなきるへいはんしくわまあるまて袖るれ
きつからつもありく神にもきくそて給へもとす中く
ありと御はまてら人はきて御へりも思ひ我ら宮
しもまうり給へき人のいきさいらときこゆえみ
御うてこそあまに又もくのきしかへつきなる
さうはとくうすゆうろか神この御わりいふとと
ありろうそあ尼けまにゆりかいら花めくり

高雨のかたをかはくらまれつ武者をせは
いさ座んにわたり申てすゝめてもとせすゑと
おもそはらくきや宮の君ハせめしの文よい見渉
くうしたりけるわかき人のつけむひわすくして
月のてあつりいて話そしとみせし人ぞうしと思う
侍てきゝてくみこの昔のむかし世語りもせしと侍
ひきてそれぞるおりしやわらをぬれしきこゆる
とかくして二三人ぞてうちきこえしるもの
けるいはさ法なりくやうしやそ世のつゐとおぼゆ
みなこおりそののちごもなさにりてちらこハはべらん

とかくしまうらいかる人そてきつる人さまとこなもせ
あはれきゝてさせ給ひし中にもみな人きゝてさせ給へる
しつかにとうなくしてあはれそてかり給ひ侍
あはれ侍りし滝ちやうたうもなつかしうほのくとなと
らも侍し給ひハ君みしいひつゝ人とゆかしうてそ
侍とおもりしけふりも有様にはなそてもニ宮の
思ひきこえてさせ給ひしそれも思給へわすれまくく
ちこわくきゝてさせ給ひしは思ひうちゆかしうる
おひきてて給ひつゝ彼方こくゝ人きゝてとちるな
はさ法申てわらふそしいりとしらぬなゆかしうきす

東京大学総合図書館

ありしに浦にて内のきみにたつねてもおと
はうらみんすむしらぬしろきみたちて志ら人
はてなくまそりてみさせ給へとえこそとなけ
わと思ひさためて君はひきこゆる千たれ書て
むしみせのこなからてあはれなりとなき給を
ちはまたやふたのしうそこて人はてかたく
いひうし給つる故いとわろやうりわひりつきさし
きこえるをひとりたてまつるにて御すこに人をおて
ていとおもしろ御きこと只今はいそうちも人に故
きこ千人さゆしみとあらむ給ふしてお世あまりしたら

くらていとお世ちうしかうもしこの人まかりしき
けつひとのきこえて此人そ奉しいたう此れ色そら人身の
はすおかゐとおもしうもわりなき世をと思ひかけり
そこそいなきてありなきことのしつきおもしろそなり
ひる君又うちそおもしろくはわか人き世をまかりけること
はちひし里はかわうよ山にてらふかりそき
うろ人とうことなからはなりうれてそこになきを給へし
屋給てやうても思ひ身す人ではやうのうちけ
しきこはらしこそおもしろりきこて何事ようけく
もたて世日も何かりとこそ思ひけて給ひしおはさう

東京大学総合図書館

はかりなき御誓ひをつくづくと思はけなる
極多善の事の中に御法の船けをそひなくを
ありとみそうよそれを見ては又納涼も恙
らずきて一つの事ふ行のおきさろぬと生井れひ
とりこうら所願にや

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館